

Misakae No Sono Dayori

みさかえの園だより

第37号

みさかえの園：長崎県諫早市小長井町遠竹 2727 番地 3 TEL 0957-34-4520 FAX 0957-34-4521

2026 年（令和 8 年）
1 月発行



特集事業所 >> 総合発達医療福祉センターむつみの家

みさかえの園って どんなところ？



めぐみの家

昭和36年5月1日に「みさかえの園」が開園、その後「めぐみの家」に名称を変え、現在は「障害者支援施設みさかえの園めぐみの家」として施設入所支援事業と生活介護事業を行っています。利用者様は女性のみで定員50名、障害支援区分の平均は5.82と重度・高齢化が進んでいますが、利用者お一人おひとりの個別支援計画に基づき、訓練だけではなく、カラオケやバスハイク等を毎週提供することによってリフレッシュしていただいています。毎日あたたかな心で利用者様に寄り添いながら、人生を歩み続けています。

のぞみの家

のぞみの家は昭和42年5月1日に開設された障害者支援施設で、現在の定員は64名です。施設は緑豊かな自然の中にあり、有明海・対岸の雲仙岳や熊本県など眺望はすばらしく、展望台、撮影スポットになりそうな場所に建てられています。

以前はお茶摘みなど外作業にも取り組んでいましたが、利用者様の高齢化が進み、現在は施設内での日中活動を中心に行っております。行事をバランスよく取り入れ、個性を大切に、体力・身体機能に合わせて生活をサポートしています。





あゆみの家

あゆみの家は、平成30年に小長井町から大村市に移転し県央、県北の障害者医療・療育のニーズに対応しています。

医療度、生活支援度に合わせて2つの病棟で支援し、在宅で過ごされている障害者の方についても短期入所でおあずかりさせていただいています。

外来は、発達障害、障害外来、歯科の診療とリハビリテーションを提供しています。また、通所ひばりで放課後等デイサービスなどを行っています。

最良の医療と生活支援を提供することを旨として、皆様とともに歩んでまいります。

サテライトセンター

みさかえの園サテライトセンターは、「在宅サービスの拠点」として平成27年に高来町へ移転開設し、今年で10年を迎えました。「相談支援：スマイルサポート」を中心に「児童系：諫早こどもデイサービスわくわく広場」「生活介護：デイスペースあん」「就労B型：ワークスペースあん」「共同生活援助：グループホームりん」と、こどもから大人まで地域のニーズをふまえた在宅生活サポートに取り組んでいます。10月には、高来町元気月間として「ふれあいみさかえ秋祭り」を開催するなど積極的に地域交流をすすめています。



事業内容の詳細

重い障がいのある方や発達に特性のある方を対象に、医療と福祉が一体となった支援施設です。「医療型障害児入所・療養介護」の入所施設を中心に「短期入所・日中一時支援・障害児等療育支援」などの在宅支援、「診断・治療・リハビリ・遺伝カウンセリング」などの専門外来を行ってライフステージに応じた総合的な支援を提供しています。

また地域支援として諫早市を中心にいくつかの自治体や、特別支援学校等の関係機関からの要請を受けて、地域の幼児健診や専門相談等の事業を受諾し、医師や専門職員の派遣を積極的に行っています。

施設での活動内容

季節ごとに行事を企画しており、ひな祭りや七夕、ハロウィンやクリスマス会など沢山のイベント。絵画・工作・音楽といった創作活動、園外散歩や買い物などの外出支援、地域の方々との交流など生活に根ざした活動を幅広く行っています。また各専門職と連携した身体づくりの運動、感覚遊び、生活動作の練習など個々の力を伸ばすための多様なプログラムを実施しています。日々の生活が豊かになるよう利用者の「できた」「たのしい」を大切にしながら社会とのつながりを広げる機会づくりにも努めています。

児童発達支援センター

施設内に通所施設として、重症心身障害児者を対象に、家庭での日常生活を送りながら楽しく通える「みさかえの園 児童発達支援センター」を併設しています。発達やコミュニケーション能力の育成を通し、生活能力向上や社会との交流を行えるよう支援しています。児童デイや成人の介護・日中活動も一体的に行っています。



職 員 紹 介



氏 名 古庄 望 (ふるしょう のぞみ)
職 種 看護師
勤続年数 13年

令和2年に福祉協会認定の重症心身障害看護師の資格を取得しました。みどり棟で8年、ひかり棟では主任として4年勤務し、今年から再びみどり棟に戻ってきました。

これまで勤務した病棟は医療病棟で、重症度の高い利用者様が多く、言葉で気持ちを伝えることが難しい方がほとんどです。だからこそ、表情やしぐさ、呼吸の変化など、わずかなサインに気づくことが大切です。

日々の関わりの中で「なんだか今日は違うな」と感じる瞬間があり、そこから得られる信頼関係や気持ちの通じ合いが、やりがいにつながっています。

趣味はスポーツ観戦で、サガン鳥栖の試合やプロレスを観るのが楽しみです。これからも、利用者様に寄り添った看護を大切にしていきたいと思います。



氏 名 井村 成美 (いむら なるみ)
職 種 公認心理士
勤続年数 11年半

むつみの家では主に入所の利用者様や外来患者様、地域の方へ出向き、個別の心理面接や心理療法、集団心理療法（ペアレント・トレーニング、コラージュ療法）、心理検査（知能検査、発達検査等）、多職種との連携を行っています。

様々な悩みを抱えた方に対し、打ち明けられる悩みやその苦しさ、痛みを受容しながら、今その方に必要なことは何か、自分らしく生きるにはどうしたらいいかを考えています。直ぐに解決するものでもありませんが、徐々に気持ちや行動に変化が見られ、その方自身が前向きにそして笑顔が見られた時に、私は喜びや仕事へのやりがいを感じます。まだまだ心理士として未熟なところがありますが、これからも一人一人の思いに寄り添いながら支えていきたいと思っています。



法人事務局からのお知らせ

理事長挨拶

社会福祉法人 聖家族会

理事長 西村 和子

【新年おめでとうございます】

また新しい年がやって来ました。新しい年が来るとやはり嬉しいもので、めでたいきもちになります。そしてどんな一年になるのかワクワク感もあると思います。今年は午年、以前馬を見ることが多くありましたが今は、馬は日常生活の中で出会う事がない動物になったように思います。農作業の機械化により馬を見ることが無くなったのでしょう。

この「みさかえの園だより」を読まれる方が今年一年健康で幸せな年でありますように。

【ミyakミyak】

大阪万博のキャラクター「ミyakミyak」、一見アメーバに6つも目があり、お化けかなと思いました。また「ミyakミyak」という名で赤と青なので静脈と動脈の血液が脈々と流れ元気な姿で、何にでも変化し進んで行く姿なのかと思いました。しかしもっと深く脈々と過去現在未来に伝えていく姿ということを読んだ事があります。昔の万博の思い出は「太陽の塔」でした。それがゆるキャラのような姿の「ミyakミyak」という名で現れ、時代の変化を感じました。

今、みさかえの園も、65年の歩みの中で、聖母マリア様の心を通して脈々と過去現在そして未来へと

理念は受け継がれています。「ミyakミyak」の大きな口は、「さあ、私の所に来てください。みんな一緒に、誰でも来てください。お話ししましょう」と言っているように見えます。誰も排除されことなく、共に歩んでいきましょうと語りかけているようです。今年もみさかえの園が明るく、地域社会の方たちにも開かれた施設として進んで行けますように願っています。



催しの紹介

【創立記念日「職員の集い」を開催しました】

今年の「職員の集い」では、初めての試みとして、シスターの皆さまによる聖歌の合唱が披露されました。澄んだ歌声が会場を包み込み、心を静かに整えるような、厳かで温かいひとときとなりました。続いて、永年勤続表彰が執り行われ、最後のオカリナコンサートでは、優しく響く音色が創立記念日に花を添え、参加した職員からも「心が癒やされた」「日々の疲れがふっと軽くなった」といった声が聞かれました。職員一人ひとりが、法人の歴史を共に刻んできた大切な仲間であることを実感する、笑顔と感謝に満ちた一日となりました。



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらのQRコードからご覧いただけます。
<https://misakae.or.jp/>

第37号 2026年（令和8年）1月
発行責任者：西村和子

発行所：社会福祉法人 聖家族会
編集：広報委員会